

会誌

第 25 号

昭和 60 年 3 月

巻 頭 言 会長 小林 貞 作

故進野久五郎先生を偲ぶ

進野先生のお写真と感謝状

ありし日の進野久五郎さんの思い出 三代会長 植 木 忠 夫

故進野先生とわが生物学会 副会長 本 多 啓 七

研 究 発 表

1. 象 (Elephants Elefanten) の歯について 坂 下 栄 作

2. モミ (Abies firma Sieb et Zucc) を訪ねて 中 川 定 一

3. オニバス (Euryale ferox Salisb) の生育 堀 与 治

4. 蔓植物 (Liana) の生態 本 多 省 三
本 多 啓 七

本 会 記 事

編 集 後 記

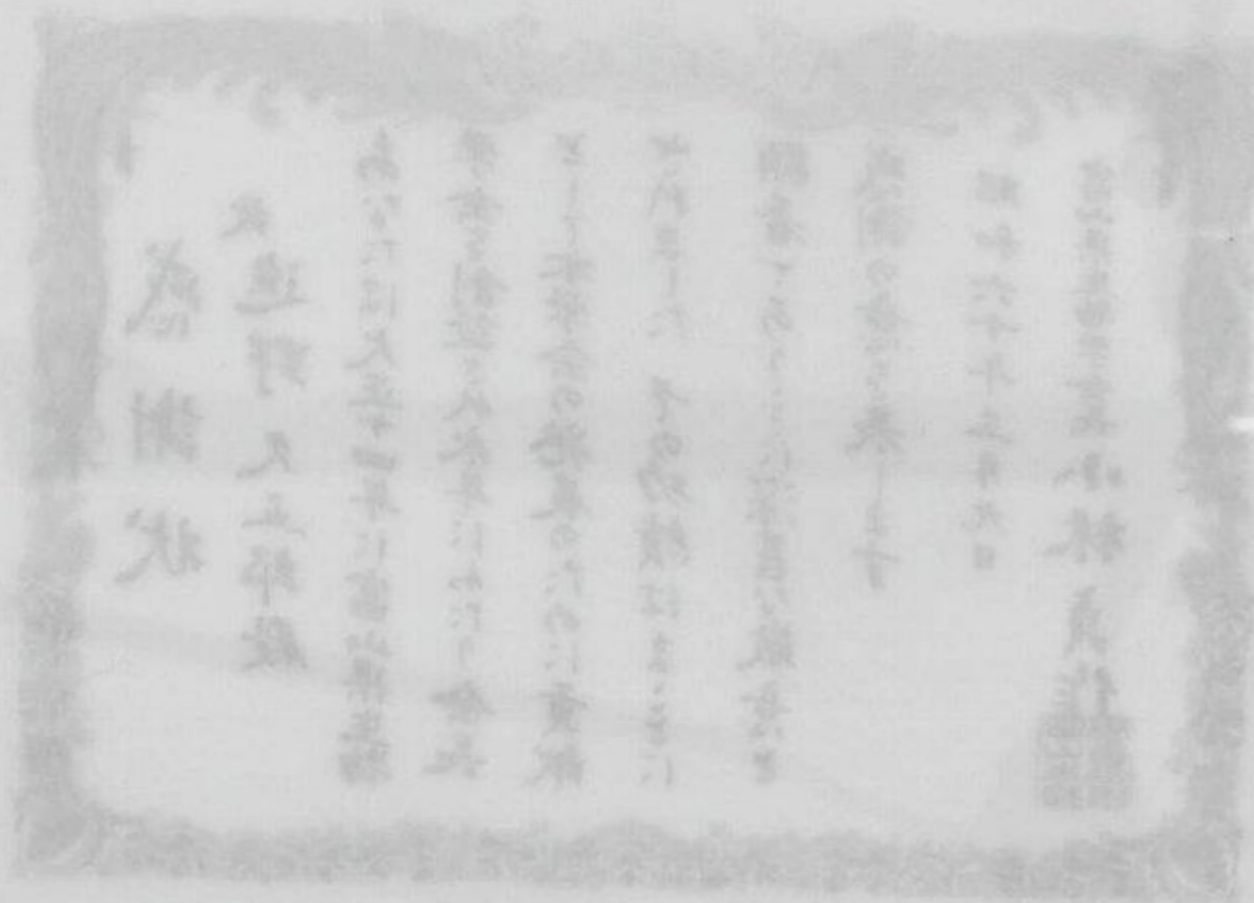
富山県生物学会

25



感謝状
故 進野久五郎殿
あなたは、大正十四年に富山県生物
学会を創設され、永年にわたり会長
として本学会の発展のために貢献
されました。その功績はまことに
顕著であり、ここに深甚な敬意と
感謝の意を表します。
昭和六十年三月九日
富山県生物学会長 小林貞作 富山県生物学会

進野久五郎先生の御功績をたたえ、ここに感謝状を捧げて会員一同心より先生の御冥福をお祈り申し上げます。



ありし日の進野久五郎さんの思い出

巻 頭 言

会長 小林 貞 作

昨59年10月19日、進野久五郎先生が逝去された。先生は私と同じ山形県出身で、若干東北弁の訛を混えてお話しされるのが印象的で、より一層の近親感があった。先生は、生涯の大半を富山県の植物学、とくに分類学の発展につくされた功績は大きい。また本会の会長もなされ、大変ご尽力賜わった。先生は県下の草木の戸籍係といわれるほど、どこにどんな植物が生育分布しているについて、ほとんど精通されていた。その業績の偉大さを讃え、あらためてご冥福を祈らずにはいられない。

さて、前24号の巻頭言では、アフリカ、とくにエチオピアの干ばつと飢餓による難民の生ずる原因について少々述べた。その最も大きな原因は、どちらかと言えば、人災の自然破壊による砂漠化の進行にあることも述べた。ところが案の定、本年4月下旬の新聞紙上に、西部アフリカでも無差別放牧による緑地帯激減による人災的砂漠化の拡大進行を招いていることを報じていた。自然破壊による、動植物の死滅に対する崇りと解してよいであろう。生物学の重要性をあらためて痛感する次第である。

上記のことから、わが学会誌、第25号の発刊をみたことは、その意義重大なものがある。この発刊を心から慶ぶとともに、バイオ時代の尖兵として、会員諸兄のご支援とご協力を、切にお願いする次第である。

山形県立大学 生物系 小林 貞 作